

平成 16 年度 春期 システム監査技術者 午後 解答例

この解答例は、独立行政法人 情報処理推進機構 情報処理技術者試験センターが公表しているものです。著作権は、同センターにありますので、その点ご注意ください。

問 1

2003 年 4 月から運用が開始された情報セキュリティ監査制度では、利害関係者向けの報告を目的とした保証型のシステム監査について触れている。しかし、保証型監査を実施する場合には、監査人、被監査企業、及び監査報告書の利用者は、それぞれの観点から注意が必要である。

本問では、システム監査人として、今後その重要性が増してくるであろう利害関係者への開示を目的としたシステム監査における監査報告書の記載内容及び利用方法について正しく理解していることが採点のポイントである。

\*-----\*

問 2

企業の合併、再編などに伴って、情報システムが統合されることが増えてきている。システム監査人は、情報システムの統合が円滑に行われ、企業の統合目的の達成に貢献できるよう情報システムの統合に関する監査を実施することが求められている。

本問では、情報システムの統合だけでなく、業務プロセス、組織・体制、各種社内手続など幅広い視点から論述されていること、システム監査チームの責任・権限や監査手続の統一などについて論述していることが採点のポイントである。

\*-----\*

問 3

企業における情報システムに戦略的な役割が求められつつあるなか、IT 投資計画の適切な評価と意思決定が重要になってきている。したがって、IT 投資計画の監査は、投資によるメリットとリスクを低減するための対応策及び法制度面への準拠性確保の両面から総合的に実施する必要がある。

本問では、企業におけるこのような IT 投資計画の適切性を監査する場合の留意点について、システム監査人の立場から具体的に論述していることが採点のポイントである。

注：この解答例に関するメールでのご質問には、応じかねます。あしからずご了承ください。